

外国語学部・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

外国語学部は言語に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有し、専攻する言語およびその言語が使用される地域の文化、社会、歴史等の教育・研究を通じて、国際的な幅広い知識と教養を身につけた外国語のスペシャリストを育成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（中国語学、英語学、日本語学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 専攻言語で議論を行うことができる程度の語学力を修得している。
- (2) 専攻する地域の文化、社会、歴史等に関する知識を基礎にして、国際社会で貢献できるだけの幅広い教養と国際的知識を修得している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 語学力および IT スキルを使って、必要な情報を収集し、分析し、判断する能力を修得している。
- (2) 問題を適切に設定し、他者の言葉に耳を傾け、自らの考えをまとめ、他者に向けて表現する能力を修得している。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 能動的な学修姿勢を身につけ、語学の知を実践の力へと高めることができる。
- (2) 語学の知に基づいた実践の力によって、地域社会や国際社会が直面する課題に対応することができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 本学の建学の精神（漢学の振興と東西文化の融合）に基づいて、異文化を知り、自文化を相対化することができる。
- (2) 本学の理念（多文化共生）に基づいて、文化の多様性を知り、多様性の中から新しい価値を創造することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学部は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 外国語、IT スキル、資料収集方法、表現方法などの基本の修得を目指す基礎教育科目を設置する。
- (2) 広範な知識の修得と問題意識の養成を目指す全学共通科目を設置する。
- (3) 各学科の教育目標を達成するための専門教育科目を設置する。
- (4) 初年次において、大学の学び方を身につけるための導入教育科目を設置する。

2. 教育方法

- (1) 語学教育においてネイティブスピーカーによる指導を豊富に導入する。

- (2) 双方向授業を展開するために少人数の演習を数多く導入する。
- (3) 異文化理解を深めるために、留学、現地研修、留学生と日本人学生の共修などの機会を豊富に設ける。
- (4) 学生が自らの関心に応じて学べるように、コースや系列別の教育課程を設ける。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針 (DP) に掲げられた各種能力を、卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、卒業論文、取得資格、その他のアセスメントの結果に基づいて、多角的かつ総合的に評価する。

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

外国語学部は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)、カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針) に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
- (2) 外国語を学ぶための基礎的な学習スキルを身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) さまざまな場面において、何が問題であるかを理解し、それについて自分の考えをまとめることができる。
- (2) 他者の意見に耳を傾け、自分の意見を表現することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 外国語修得と異文化理解に強い関心をもっている。
- (2) 修得した語学力や異文化体験で得た知見などを社会で活かしたいという目的意識をもっている。

中国語学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

外国語学部中国語学科は、中国語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

中国語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（中国語学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 中国語で自分の専門分野に関する内容について議論することができる程度の運用能力を修得している。
- (2) 自ら課題を設定し、調査分析した結果を文章や口頭でわかりやすく論理的に表現できる 知識と技能を修得している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 中国を中心とする華語圏の文化、社会、政治、経済等についての問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表することができる。
- (2) I Tスキルに関する知識を駆使して、必要な情報を収集・分析し、結論を導き出すことができる。
- (3) 英語圏における文化、社会等についての問題意識を持ち、それらについて自分の意見を平易な英語で表現できる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 中国を中心とする華語圏の文化、社会、政治、経済等に関する知識および中国語の表現力を修得した後も研鑽を続け、社会の変化に適応し、社会に貢献できる人材足り得る能力を有する。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 中国を中心とする華語圏の人々との交流や折衝において、多様な文化を理解し尊重する姿勢、物事を円滑に進める能力を発揮することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

中国語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 1、2年次にはクラス担任制による責任を持った指導を行う。2年次より「中国語・社会（ビジネス）コース」と「中国語・言語（通訳翻訳）コース」に分かれ、前者のコースにおいては現代の中国を理解し中国語をビジネスに活用できる能力を修得させ、後者のコースでは中国語を深く掘り下げて学ぶことで、通訳翻訳のできる能力を修得させる。
- (2) いずれのコースにおいても、中国語ネイティブスピーカーの指導により、中国語の読む・書く・聞く・話す能力を確実に修得させる。それと同時に日中関係を視野に入れながら、日中経済動向、日中貿易関係および中国と関係の深い華語圏の社会文化に関する知識を修得させる。

- (3) 外国語科目としては1年次の英語を必修科目とし、2年次の英語は選択科目とする。全学共通科目のうち12単位を卒業に必要な選択必修科目とする。
- (4) 問題解決に必要な情報を収集・分析し発表することのできるITスキルを修得させる。

2. 教育方法

- (1) 3、4年次には1、2年次に修得した基礎の上に、中国語の文献を深く読み込み、理解し、自分の考えをまとめた後は、それを中国語で表現できる能力を高めるための科目群を置く。
- (2) 3、4年次には、さらにゼミ教員による卒業研究指導により、情報を的確に収集し、集めた情報を正確に分析し、それをまとめて報告・討論できる能力と技術を修得させる。
- (3) 中国・台湾における短期留学（研修）や長期留学に参加することにより、中国語の実践的な語学力を向上させ、異文化理解に関する知識を修得させる。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、中国語学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
- (2) 学位授与方針で掲げられた形成的な評価と比較して、その評価に届かない学生については、教員による個人面談を実施する。
- (3) ゼミを選択した学生については、4年間の総括的な学修成果として、ゼミ教員による卒業論文あるいはそれに代わるものの評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

中国語学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校卒業レベルの十分な学力を有している。
- (2) 言語を学ぶ上での基礎的な学習スキルを身に付けている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 中国の言語、文化、娯楽、歴史、政治、経済について興味があり、そうした事柄についてより深く学ぶことができる。
- (2) 単なる知識の修得にとどまらず、その知識にもとづいてより深く考え、自分の考えをまとめ、発表することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 将来は中国語を使う職業につきたいと考えている。
- (2) すでに一定の中国語能力を有しているが、その中国語の運用能力をさらに向上させたいと考えている。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー			
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力	主体的に学習に 取り組む態度	
		AP1	AP2	AP3	
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試(前・中・後))	大学入学共通テスト	●	●		
一般選抜 (全学部統一入試(前・後))	学力試験(国・英)	●	●		
一般選抜 (3教科)	学力試験 (国・英・選択)	●	●		
一般選抜 (英語民間試験活用総合評 価入試)	外部試験スコア (GTEC CBT・TEAP・IELTS™・ 日本英語検定協会実用英 語技能検定)	●			
	調査書	●			
	課題		●	●	
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	課題		●	●	
	自己推薦書		●	●	
	中国語	●	●		
	個人面接		●	●	
学校推薦 型選抜	指定校	調査書	●		
	スポーツ	調査書	●		
	公募制	調査書	●		
		小論文		●	●
		個人面接		●	●
特別選抜 試験	社会人	調査書	●		
		課題		●	●
		個人面接		●	●
	留学生	調査書	●		
		小論文		●	●
		個人面接		●	●

英語学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

外国語学部英語学科は、英語学に加えてドイツ語学、フランス語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（英語学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

(1) 英語学および関連領域についての豊かな専門知識を有し、目標学修言語を用いて円滑なコミュニケーションをとることができる。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

(1) 社会的・世界的なことがらについて、目標学修言語によるメディアからの情報を正確かつ批判的に読み取り、あるいは聞き取り、それについて自分の考えを述べ、また文章にまとめることができる。

(2) 英語学および関連領域についての豊かな専門知識を基盤として、自らの視点から目標学修言語を通して発信することができる。

(3) IT スキルを駆使して収集したデータを分析し、結論を導いて発表することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

(1) 現在の知識をもとに新しい情報を常に収集し学び続けることで、急激に変わりゆく現代社会に貢献できる能力を有する。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

(1) 西洋の文化の理解を深め、東西文化を融合して新しい文化の創造に貢献することができる。

(2) 異文化体験や異文化理解を通じて培った多文化への許容性を活用し、理解ある構成員として多文化共生社会で活躍する。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

英語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

(1) 英語コースおよびヨーロッパ2言語コースの2コース制をとる。英語コースは英語と選択外国語を、ヨーロッパ2言語コースは英語とドイツ語またはフランス語を主たる目標学修言語とする。

(2) いずれの目標学修言語においても、日常的な事柄について対話するスキルを向上させる授業科目を置く。

(3) いずれの目標学修言語においても、社会的な事柄や経済・環境・人権・開発・女性などの地球的問題（グローバルイシュー）について語り、また書く授業科目を置く。

(4) 英語学およびその関連領域の地域の文化、社会、歴史等について学ぶための、入門、概論、研究という系統だった科目群を置く。

- (5) 情報を収集し、分析し、発表するための IT スキルを養成する科目群を置く。
- (6) 自分の力で情報を収集・分析し結論を導き出して発表するスキルを養う、ゼミナールを配する。
- (7) 学問分野で分類された基本科目、学際的な課題（テーマ）科目、発展科目からなる全学共通科目を置く。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する
- (2) 1 年次より 4 年次まで、少人数のゼミナールの履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。
- (3) 海外での体験学習の受講（留学）を積極的に推奨する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の修得度合いを、英語学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって形成的に測定する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

英語学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校卒業レベルの十分な学力を有している。
- (2) 簡単な事柄について英語で自分の意見を表現できる能力を有している。
- (3) 現代社会の諸相について問題意識を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 現代社会の諸相について考え、判断し、自分の意見を表現することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 異文化体験・異文化理解を通じて自分自身のものの見方を広げ、また深めたいと考えている。
- (2) 将来、英語、ドイツ語、フランス語の能力を活かした職業に就きたいと考えている。
- (3) 英語の運用能力をさらに向上させたいと考えている。
- (4) 英語という言語および関連する分野について、学問としてさらに深く学びたいと考えている。
- (5) ドイツ語あるいはフランス語を学び、またドイツ語圏やフランス語圏などのヨーロッパ文化について学びたいと考えている。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー			
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度	
		AP1	AP2	AP3	
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	大学入学共通テスト	●			
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	学力試験 (国・英)	●			
一般選抜 (3教科入試)	学力試験 (国・英・選択)	●			
一般選抜 (英語民間試験活用総合評 価型入試)	外部試験スコア (GTEC CBT・TEAP・ TEAP CBT・IELTS™・日 本英語検定協会実用英 語技能検定)	●			
	調査書	●			
	課題		●	●	
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	自己推薦書	● (言語の技能)	●	●	
	口頭試問 (英語を含む)	●	●	●	
学校推薦 型選抜	指定校	調査書	●		
	スポーツ	調査書	●		
	公募制	調査書	●		
		口頭試問 (英語を含む)	●	●	●
特別選抜 試験	社会人	調査書	●		
		小論文	● (言語の技能)	●	●
		個人面接	●	●	●
	留学生	調査書	●		
		英語	●		
		小論文	● (言語の技能)	●	●
		個人面接	●	●	●

日本語学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

外国語学部日本語学科は、日本語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本語学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 母語として、または第二言語・外国語としての日本語の高度な運用能力を有し、それを基礎として国際社会で求められる幅広い教養と知識を修得している。
- (2) 日本語学の専門的な知識をもとに、日本語を客観的および分析的に理解することができる。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 日本語学・日本語教育学の専門的な知識と、語学・異文化理解等の能力を組み合わせ、専門分野に関して議論することができる。
- (2) 自らの視点による考えをまとめ、文章や口頭で発表する能力を修得している。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 日本語学・日本語教育学の専門知識をもって地域社会や国際社会のニーズに応えようとする意欲を持っている。
- (2) 日本の文化・社会・歴史等についての問題意識を持ち、先入観を持たず自ら課題を設定することができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 日本語および日本文化を東西文化の接触・交流の観点から理解している。
- (2) 自らが学んだ内容が、多文化共生を前提とした現代社会において果たしうる役割を理解している。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

日本語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 全学共通科目を通して、広く一般的な教養を身につけさせる。
- (2) 学科の特性を生かした職業選択に応じたキャリア教育を行うとともに、社会人として仕事をするうえでの強みとなる実務的かつ高度な日本語力を身に付けさせる。
- (3) 初年次においては、必修の基礎教育科目で、日本語の基礎的運用能力を向上させながら、専門的な研究に入るためのスタディスキルやITスキルを修得させる。
- (4) 専門教育科目では、日本語学、言語学、日本語教育学関連の必修科目および語学の選択必修科目の学修を通じて、日本語学、言語学、日本語教育学、語学、異文化理解等の能力を修得させる。
- (5)

2. 教育方法

- (1) 留学生と日本人学生との共修を通じて、異文化理解の能力を実践的に身につけさせる。
- (2) 日本語に加えて複数の外国語を学ばせることによって、日本語と他言語との比較の視点や、日本語教育上必要な学習者の母語についての知識を修得させる。
- (3) 少人数制のゼミにおいて、自ら設定したテーマに基づき卒業研究を行うことによって、特定の課題について問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表する能力を修得させる。

3. 評価方法

- (1) ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）で掲げられた能力の形成的な評価として、日本語学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
- (2) 単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

日本語学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 日本語学に対する深い関心と、それを専門的に学ぶのに十分な基礎学力を持っている。
- (2) 日本語について専門的に学ぶための基礎となる確かな日本語力を持っている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 日本語や日本の文化を世界の言語・文化の中で相対化し、客観的に見ることのできる批判的な思考力や判断力を持ち、その思考や判断を的確に表現できる。
- (2) 先入観や偏見にとらわれず、広い視野から外国文化に触れ、それをありのままに理解できる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 日本語や日本の文化を深く学ぶとともに、外国語・外国文化にも関心を抱き、異文化交流に積極的に参加する意欲を持っている。
- (2) 日本語教師・国語教師のみならず、本学科で修得した能力と知識を生かして、広く世界と日本の中に活躍の場を見出したいと考えている。
- (3) 日本語学科で学んだことを創造的に活用して、大きな変動の中にある現代社会の需要に応えたいと考えている。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー			
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
		AP1	AP2	AP3	
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試(前・中・後))	大学入学共通テスト	●			
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	学力試験(国・英)	●			
一般選抜 (3教科)	学力試験 (国・英・選択)	●			
一般選抜 (英語民間試験活用総合 評価入試)	外部試験スコア (GTEC CBT・TEAP・IELTS™・ 日本英語検定協会実用英語 技能検定)	●			
	調査書	●		●	
	課題		●	●	
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	自己推薦書		●	●	
	日本語		●	●	
	個人面接		●	●	
学校推薦 型選抜	指定校 スポーツ	調査書	●	●	
		調査書	●	●	
	公募制	小論文		●	●
		個人面接		●	●
特別選抜 試験	社会人	調査書	●	●	
		小論文		●	●
		個人面接		●	●
	留学生	調査書	●		●
		小論文		●	●
		自己推薦書		●	●
		個人面接		●	●